



西高新聞

NAGASAKI NISHI INFORMATION

第300号
令和6年9月30日 発行
編集責任者 初村 一郎
http://www.nagasaki-nishi.ed.jp

信頼され続ける学校 学びがいのある学校 居場所のある学校

校長室から

「『人財』の秋に」 校長 初村 一郎

全校生徒831名が、士気高らかに自分たちの手で創り上げた西高祭と運動会。これからの新人戦や総文祭、そして大学受験に向けて弾みをつける素晴らしい祭典になりました。生徒たちは、ここで得た大きな達成感、満足感を原動力に、今後ますます成長してくれるものと確信します。ご参観いただいた皆様方のご厚情に支えられ、盛会のうちに終了できましたことに改めてお礼申し上げます。

さて、本校のSSH（スーパーサイエンスハイスクール）事業は、第Ⅳ期の最終年度、通算20年目となり、その集大成として、第Ⅴ期に向けて準備を進めています。西高にとってなくてはならない、生徒・職員ともに成長を実感できる事業であり、生徒自らが自分の夢や目標、そしてキャリアを考えるきっかけになっています。

文理を問わず、答えの見えない様々な問題を科学的に探究し、解決に向けて果敢に挑んでいく姿勢と自分の考えを発信する態度を身に付け、世界でリーダーとして活躍する人材（ジンザイ）をいかに育てるか。このSSHを通して実践しているところですが、皆さんはこの「ジンザイ」という言葉に、以下のようないろいろな捉え方があることをご存知でしょうか？

ある企業を訪問したときに目に留まった行動指針を、私なりに解釈しなおして表現したものを紹介したいと思います。

人財…自分で考え、自分で成果を上げられる人（求められる良いジンザイ）
人材…言われたことなら、自分でやりきれ人（求められる普通のジンザイ）
人在…言われたことを言われたとおりにやるだけの人（避けられるジンザイ）
人罪…言われたこともできないのに、不満が多い人（必要とされないジンザイ）

【人財になるための7つの条件】

- 1 明るく元気な挨拶ができる
- 2 言われなくても自分で考え行動できる
- 3 人が嫌がることでも進んで取り組める
- 4 常に「どうしたらできるか？」を考える
- 5 期限を守ることができる
- 6 報告・連絡・相談がきちんとできる
- 7 人が見ていなくても手を抜かずに頑張れる

会社でも学校でも地域でも、集団はそれを構成する多くの人で成り立っています。すなわち、一人ひとりの質の向上が組織の成果を大きく左右します。一般に「人材」といいますが、その中身は先に示したように「人財」・「人材」・「人在」・「人罪」と様々です。いかに「人材」から「人財」へと生徒たちの自覚を促し得るか、我々大人に課せられた使命だと言えます。

いよいよ秋本番。スポーツの秋、芸術の秋、読書の秋、勉強の秋。生徒たちにとって実り多い秋となるよう、様々な経験を通してたくましい「人財」に成長してほしいと願います。

SSH校内研究発表会 7月23日（火）

長崎西高等学校のA棟、D棟の3F、4Fを発表会場に、3年生による英語を用いた課題研究のポスター発表が行われました。合計79本の研究発表に対して、SSH運営指導委員の先生をはじめ、長崎大学大学院工学研究科の木村教授を含めて長崎大学より6名の先生方、県立学校のALT24名、長崎市の小中学校のALT20名の先生方など、多くの先生方から研究発表の見学や審査をしていただきました。発表した3年生は英語による質疑にも即時的に対応するなど、培われた英語運用能力がいたるところで発揮されました。閉会式では、SSH運営指導委員の長崎大学 学長補佐 福永博俊 先生より講評をいただきました。想像以上に中学生や保護者の見学者が多く、会場が混雑したことで暑さから来年度の開催形態を見直す必要を感じました。 【SSH企画推進部主任 藤原 秀樹】



オーストラリア語学研修 7月28日（日）～8月4日（日）

2年生59名がオーストラリアのシドニーへ語学研修に行きました。大学訪問では現地の大学生とゲームや軽食を楽しむ中で、英語での会話に積極的に挑戦しました。その後、ホームステイ先に分かれ、ホームステイ先から訪問校に登校しました。訪問校では、午前中は英会話の授業を受け、午後からはバディとともに訪問校の授業に参加しました。参加した2年1組猪熊咲希さんの感想を紹介します。

This was my first trip abroad. So, I was nervous at first. But, once I got there, it was so much fun! The nature of Australia was so beautiful and there were many sights that I wanted to see forever. Also, everyone in Australia was kind and friendly. My host family took me to various places and talked with me a lot. Thanks to them, it became easier for me to speak in English. The students at Montgrove were also very kind, and I was able to talk with them a lot. I want to improve my English skills. There were many times when I couldn't catch what the host family were saying in their conversations because they spoke too fast. So first, I want to increase the number of words I know and study to understand what they are speaking at any speed.

【第2学年 荒川 育代】



平和学習会・瓊中慰霊祭

7月2日（火）事前学習を下記のとおり行い、感想文や俳句・短歌などの作品としてまとめました。

- 1年：ビデオ「少女たちが見つめた長崎」視聴
- 2年：原爆資料館、原爆死没者追悼平和祈念館の見学
- 3年：被爆遺構巡り

8月9日（金）の平和学習会では、代表作品の発表と旧制瓊浦中同窓生の 木村 正里 様 による講演を実施しました。平和学習を通して、生徒は戦争の悲惨さや平和の大切さ、国際協力的重要性について理解を深めました。

また、その後「不撓不屈」の碑の前で旧制瓊浦中慰霊祭が執り行われました。被爆から79年、同窓生の方々の思いは深く、厳かな雰囲気で行われました。 【教務部主任 増田 裕和】



令和6年度 西高祭 9月7日(土)～8日(日)

令和6年度西高祭を9月7日(土)～8日(日)の2日間、開催しました。今年は完全にコロナ禍前の状態に戻って何の制限もなく実施することができ、第1体育館の一般観覧席も660席ほど準備しましたが、ほぼ満席になるほど保護者、地域の皆様にご来場いただき、大盛況でした。1日目は文化部発表が行われ、その素晴らしいパフォーマンスに西高の文化部のレベルの高さを改めて感じる事が出来ました。文化部ステージ発表部門はギター部、展示部門は物理部が最優秀賞を受賞しました。2日目は、各クラス、有志の発表が行われました。今年は展示・体験アトラクションのクラスが多く、ステージ発表は3クラスだけでしたが、金の柏賞は自主制作映画をステージで上映した2-5が受賞しました。銀の柏賞はお化け屋敷を作成した2-7が受賞しましたが、他のクラスの展示、体験アトラクションも人気で待ち時間40分というクラスも多々ありました。これほど盛況だったのも生徒会、自主的に立候補してくれた実行委員、各クラスの文化委員、各文化部部員など生徒たちの積極的な活動のおかげだと思います。特に放送部の皆さん、ステージ発表の運営ありがとうございました。来年以降、さらなる生徒達の自主的で計画的な活動を期待します。

【自律活動部 岩崎 正吾】

今年も無事に二日間の西高祭が幕を閉じました。今年は二日とも保護者の方々に見ていただくことが出来てとても良かったです。また、生徒の皆さんも、普段目にする事の少ない文化部の活動を見て刺激を受けたり、クラスの出し物でクラスの絆を深めたりする良い機会となったことでしょう。運営の面では、準備期間が短く、大変なこともありましたが、生徒会や実行委員、先生方など多くの人と関わって西高祭を作り上げたことは自分にとって一生の思い出となりました。実行委員長を務めるにあたり、自分を支え、協力してくださったすべての人に本当に感謝しています。来年も多くの生徒が実行委員として西高祭に携わってくれれば嬉しいです。

【西高祭実行委員長 土谷 菜緒】



令和6年度 運動会 9月18日(水)

ー“感謝”を忘れないー

開会宣言。朝礼台の上に立ったとき、私はその風景に感動しました。雲一つない快晴の中、闘志に満ち溢れた眼をした皆のたくましい顔を見て、今年の運動会は素晴らしいものになることを確信しました。私は、運動会は、いろんな人たちの努力の結晶で出来上がっていると思います。皆さんにも、西高祭や運動会、日々の生活のいろんな出来事において、身近にいる人や、もしかしたら知らない誰かが、自分のことを助けてくれたことがあるでしょう。そんなときは、いつでも“感謝”の心を忘れないでください。私は、今回の運動会で、周りの友達や実行委員の皆、各団の頼れる班長たち、赤組の My Bro たち、先生方(特に佐和子先生)、そして家族に支えられて、最後までこの大役をやり遂げることができました。皆さんも、これから自分を支えてくれる全ての存在に“感謝”を忘れずに、「西高到達点」目指して頑張っていきましょう!!!

【実行委員長 柳川 仁人】

ーMy Broー

我々赤団は団のテーマの赫赫燃焰の他に My Bro という言葉も掲げていました。この言葉には「みんな自分の兄弟である」という意味や「絆」という意味があります。この2つの言葉どおり運動会本番ではクラスや

学年の垣根を超えて一致団結し、燃えるようなパフォーマンスができたのだと思います。班長としては総合優勝という結果以上に嬉しいことはありません。今年は熱中症対策として運動会の開催時期を遅らせたために、例年とは異なるスケジュールを立てて準備を進めるなど、班長同士で話し合いながらなんとか当日を迎えることができました。解団式のあと西高全体で「ボラレ」をした時は班長をやってよかった、と心から思えました。本当に一生の思い出になる運動会でした。

【赤班班長 山岸 昭正】

ー蒼思蒼愛の体現ー

運動会を終えて、大きな達成感に満ちています。1学期の終わりに本番に向けて準備してきた期間は大変ではありましたが、高校生活の中で1番「青春してるなあ」と思える時間でした。また、班長4人で先輩方の伝統を受け継ぎ、新しい挑戦を行ったことで運動会を盛り上げることができました。特に選手宣誓は皆さんの印象に残る宣誓ができたと思っています。青組の皆さん、運動会本当にお疲れ様でした！優勝することはできませんでしたが、練習期間で深まった青組への愛を本番の競技の中で最大限発揮していた皆さんの姿はまさに青組のテーマの「蒼思蒼愛」そのものでした。本当にありがとうございました。青組最高！運動会最高！西高最高！

【青班班長 津田 弦汰】

ー愛する白組へー

今年の白組は「腕白小僧」のスローガンのもと、無邪気さを忘れず、全力で楽しみながら活動しました。徹底したスケジュールリングと各競技リーダーと各クラス体育委員の協力のおかげで円滑に練習や作業を行うことができました。応援団、パネル等の種目で見事1位を獲得することもできました。総合準優勝となり、優勝することはできなかったものの、2か月間の集大成をぶつけることができました。白組は団の雰囲気良く、班長の私が引っ張っていくというよりは、皆で盛り上がりながら前に進んでいく、そんな集団でした。白組の皆と出会い、一つの目標に向かって進んでいく、とても有意義な日々となりました。要領の悪い班長だったと思いますが、皆のおかげで人間的にも深くなり、成長することができました。白組愛してます。「白の優勝 最高の場所で」

【白班班長 森田 健将】

ーこれぞ“西高到達点”！ー

黄組の班長を務めた川添男丸です。僕たち黄組は優勝する事はできませんでしたが、今年の運動会は僕が今まで経験した運動会の中で一番楽しいものでした。それは、黄組のみんなが、いや、全ての団が一丸となって運動会を作り上げることが出来たからです。全ての競技で、各団の選手たちが優勝を目指して全力で頑張っている様子を見て、とてもアツい！と思いました。

班長としての仕事はとても忙しくて大変でしたが、今は本当にやって良かったと思っています。共に頑張ってきた他団班長の3人、僕たちの運動会のためにご尽力いただいた先生方、ついてきてくれた黄組の皆さんにはとても感謝しています。世界一アツい運動会、最高でした！

【黄班班長 川添 男丸】

